

## 2019 年度 活動報告

東北復興支援

 **イオン心をつなぐプロジェクト**  
Project Aeon Joining Heart

イオン心をつなぐプロジェクト

<https://www.facebook.com/aeonkokoro/>

お問い合わせ先 本報告書の内容やイオンの環境保全・社会貢献活動について、ご質問やご意見がございましたら下記にご連絡ください。

**イオン株式会社** 環境・社会貢献部 〒261-8515 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-5-1 TEL:043-212-6037 FAX:043-212-6790  
イオン Web サイト <http://www.aeon.info/>

Facebookもチェック 



# 地域の皆さまと手をたずさえ、東北創生の輪を広げます。

「イオン心をつなぐプロジェクト」は東日本大震災により甚大な被害を被った被災地の復興、創生にオールイオン（労使一体）で取り組むことを目的とし、2012年3月に活動をスタートしました。

当初の目標として10年間で東北地方沿岸を中心に累計30万本の植樹の実施、ボランティアをはじめとする従業員30万人の活動参加を掲げ、取り組んでまいりました。2018年8月末にボランティア30万人の参加を達成、2019年3月9日には宮城県仙台市荒浜において累計30万本の植樹が達成されました。

2016年度からは「にぎわい東北 一ツなげよう、ふるさとのチカラ」を新たなスローガンとし、復興から次のステージである成長・創生に向けた活動「イオン未来共創プログラム」を展開しています。

イオンは今後もこの活動を継続し、地域の皆さまと手をたずさえ「夢のある未来」の実現に向け活動を続けてまいります。

2019年7月14日にイオン浪江店をオープン。



福島県浪江町の避難指示が2017年春に一部解除されてから、生鮮食料品や日用品を扱うスーパーは町内初出店。住民の帰還を後押しします。



## イオン未来共創プログラム

2016年度からグループ各社が被災地でのより具体的な支援活動を進めています。現場を視察し、地元の皆さまとの意見交換やワークショップなどの交流をとおして相互理解を深め、地域の社会課題の解決に取り組んでいます。

## ◆イオン心をつなぐプロジェクトこれまでの実績

1. 全国のイオンピープルがボランティアで東北を応援する。[目標：10年間で30万人が参加する。]

●年度別 各社・各地の支援参加人数の推移



東北復興のために全国のイオンピープルが遠方からでもできる様々な支援活動を行っています。グループ各社や各労働組合、店舗や事業所単位での応援活動を持続可能なものとするために、交流をとおして地域課題の解決を支援する「イオン未来共創プログラム」を開催しています。

累計人数 延べ **377,150**名

2. 東北復興ふるさとの森づくり。[目標：10年間で30万本を植樹する。]

●年度別 植樹本数の推移



目標達成後も大津波により消失した海岸林の再生を始め、住民の皆さまの心の拠り所としての神社、駅前広場やコミュニティ施設などの植樹を行ってまいります。また新しい産業創生や観光資源開発を目的として、ぶどうやゆず、ツツジなども植樹しています。

累計本数 **316,419**本 (107カ所)

3. 被災地に従業員ボランティアを派遣する。

[目標：10年間継続して派遣する。]

2012年度～2019年度までのボランティア活動に参加したメンバーは延べ3,969名です。活動内容もガレキの撤去、家の片付け作業から始まり現在では農業再生の手伝いや植樹活動、未来共創プログラムと連動した内容となっています。私たちが行うボランティア活動は地域の皆さまとの交流を柱とし、活動を通じて参加者個人の防災意識を高めることを目的としています。

●年度別 現地ボランティア人数の推移



累計人数 延べ **3,969**名 (114回)

～地域とイオングループ各社をつなぐ実践研修～

# イオン 未来共創プログラム

## 岩手県遠野市米通 どぶろく田んぼプロジェクト

### — 限界集落地域の挑戦 —

その昔、遠野から沿岸部の大槌や釜石まで米を運んだことから「米通（こめどおり）」と名付けられた土淵町米通地区。関所がある峠を避け、ヤミ米を運ぶ裏道として使われていた道沿いにある山あいの小さな里です。米通地区の世帯数はわずか7世帯、住民の平均年齢70歳超の「限界集落」です。

イオン心をつなぐプロジェクトでは人口流失による過疎と住民の高齢化という問題の解決に向けた挑戦への支援の一環として、無農薬・無肥料の自然栽培米から造るどぶろくの商品化に向け活動してきました。

そして念願の「米通どぶろく」が2019年7月に完成しました。遠野市はどぶろく特区として日本第1号の認定を受けており、この地域特性も活かした活動となります。農産物の栽培から商品開発、加工・販売まで一体的に行う「6次産業化」を図ることにより地域の活性化につなげ、持続可能な集落のあり方を探っています。



米通集落とどぶろく米を育てている田んぼ（中央下方）



米通どぶろく



無農薬・無肥料の自然栽培でどぶろく米を育てています。

# 米通どぶろく完成発表会

米通自治会 NPO法人 遠野まごころネット イオン心まごころネット



## 念願の「米通どぶろく」が完成しました。

手間をかけ、無農薬・無肥料で育てた米から醸造した初めての「どぶろく」ができました。

2019年8月9日に「米通どぶろく完成発表会」が行なわれ、完成を待ち望んだ地域の皆さまと共に喜びを分かち合いました。

イオングループ店舗にて販売会も行なわれ、今後、このどぶろくを活用して地域の活性化につなげていきたいと考えています。



イオングループ店舗においてどぶろく販売会を行いました。

米通のこれから「住民のペースでゆっくりと一歩ずつ」日本のいたるところに「米通」が存在します。その多くは間もなく姿を消してしまうでしょう。しかし受け継がれてきた住民の「暮らし方」には日本の根っこがありました。米通では昨年末、新たに「炭小屋」を作り、木炭の生産を始めました。長年の知恵や技術を絶やすことなく次の世代へつなぐ、住民の「生き方」の継承を通じ共同体の持続可能性に挑む姿があります。



# 岩手県大槌町

## かねざわクレソンプロモーション

### ー 岩手県大槌町の新しい産業創生へー

イオン心をつなぐプロジェクトでは遠野市で復興支援に取り組むNPO法人遠野まごころネットと連携し、大槌町に新たな特産品を作ろうとクレソン栽培に取り組んでいます。大槌町金沢(かねざわ)地区の豊富な沢水を活用し、育てた「クレソン」のブランド化を目指しています。金沢(かねざわ)のクレソンは肉厚な葉と太い茎が特徴で、歯ごたえが良く様々な調理法で美味しくいただけます。

町内の産地直売所やイオンタウン釜石、イオン盛岡店、イオンスタイル碑文谷でも試食販売会を行い、新しいレシピの提案をしながら町の特産品として全国に広めていきたいと考えています。

「町のために何かをしたい。」  
クレソンで町と人を元気に

この思いから女性農家グループ

“かねざわクレソンヌ”

を結成しました。



クレソン試食販売会(イオン盛岡店)



クレソン試食販売会(イオンスタイル碑文谷)



調理例



クレソンのツナサラダ



クレソンのシフォンケーキ

# 福島県南相馬市広野町

## バナナ栽培の挑戦をみんなで応援

### — 町の新たな特産品として国産バナナを栽培 —

福島県広野町では東日本大震災で被害を受けた農業と観光の再生に向け、バナナ「綺麗」（正式名称：朝陽に輝く水平線がとて綺麗なみかんの丘のある町のバナナ）を栽培しています。岡山県の農業法人ファームが開発した敢えてバナナの苗を凍結させる「凍結解凍覚醒法」という新技術を応用することにより福島でもバナナを栽培することが可能となりました。

このバナナ「綺麗」は糖度が高めでクリーミーかつ濃厚な味わいが特徴で、無農薬栽培のため皮まで食べることができます。熱帯性の作物を東北の地で栽培、収穫するというチャレンジ精神が町民の方々へ希望と勇気を与え、また、このバナナの茎を活用し、地域の子供たちの卒業証書を作成しました。



### — 伝統技法を伝える —

福島県いわき市遠野町で生産される良質な楮（こうぞ）を原料に用いて、冬季間（1月～2月初旬）のみ製造される遠野和紙は、手すきならではの味わいがある上質な和紙です。400年以上の歴史をもち、明治20年頃には約400戸が生産していたといえます。

かつては地場産業を代表した遠野和紙ですが現在、生産をしているのは1軒のみとなりました。そのため、いわき市では2015年度から地域おこし協力隊制度を活用し、遠野和紙の伝統を未来に継承する事業を展開しています。



## 卒業証書を作りました。

イオン 未来共創プログラムを通じて、つながった広野町のバナナ栽培と、いわき市遠野地区の伝統文化「遠野和紙」の後継者のみなさん。広野小学校の6年生に自分の卒業証書を自分の手ですいてもらおうと、型にバナナの茎を粉末にした原料を入れて、子供たちの手を取り一枚づつ丁寧に紙すきを教えました。



## 宮城県南三陸町 南三陸の復興とともに

南三陸町が掲げているスローガン「自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまちへの創造的復興」を実現すべく、地域の皆さまの未来を応援しています。

南三陸町は森・里・海の恵みが豊かな町です。同町では、大きな被害を受けた東日本大震災からの復興にあたり人と環境にやさしく災害に強い循環型のまちづくりを目指した「バイオマス産業都市構想」の実現を進めています。

この構想に資するプロジェクトとして、2015年10月に「南三陸森林管理協議会」が宮城県初のFSC森林認証を取得しました。



## 国産FSC認証の木材を使用した商品・店舗を拡大

衣食住すべての分野でFSC認証製品を普及

イオンでは2014年に「持続可能な調達原則」を作り、お店で販売する商品や資材など、すべての素材に対して自然資源の違法な取引や採取したものを使わないことやトレーサビリティを明確化することを決めました。

そのため早くから森林認証製品の導入に積極的に動いています。2008年からFSC®認証紙を使ったノートを販売し、2011年からは値札やタグに、2015年からは一部商品のパッケージや製品そのものに同認証の資材を使うなど、衣食住すべての分野でFSC認証製品を扱っています。また適切に管理された森から生産された木材を店舗の資材や什器として活用しています。

イオンは今後もFSC®認証商品の開発に積極的に取り組んでまいります。



南三陸 YES 工房は地域資源である『木』を利活用し、「雇用」と「交流」の場づくりを目指し、モノづくりを行っている工房です。『FSC CoC 認証』を取得しており、南三陸町内の森林の環境保全、経済活動も含めた持続可能な社会の実現に尽力されている団体です。



南三陸 YES 工房にて木クラフト体験



南三陸杉を使用した  
植樹プレート



《 FSC 認証 》

森林環境を適切に保全し、地域の社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理方法と、その森林に由来する製品に与えられる認証

CoC (Chain of Custody : 加工流通過程の管理) 認証とは 森林管理認証を受けた森林から産出された木材・紙製品を、適切に管理・加工していることを認証する制度です。

# 宮城県丸森町耕野地区

## 干し柿援農ボランティア

— 中山間地域が抱える課題を学び、持続可能な地域づくりを体験する。 —

宮城県丸森町耕野地区では古くから干し柿が特産品として作られてきましたが、近年、後継者の減少による人手不足や、震災時の風評被害により地区の生産者は大きなダメージを被っています。

地域交流型の支援活動「イオン 未来共創プログラム」では、この地域課題を現場で体感し、地元農産物の販路拡大を目指した援農ボランティアを行っています。柿の収穫、皮むき作業や店舗での実験販売を経て、販路を拡大し、耕野地区のブランド力向上に努めています。



イオン琉球(株)では援農ボランティアに続き、丸森町地域おこし商品「ころ柿」や「はちみつ」、「たけのこ」など特産品の従業員販売し、買って東北応援を実施いたしました。特に沖縄地区では珍しい干し柿はとても美味しいと大好評でした。



2019年度は台風19号により丸森町は甚大な被害に見舞われました。丸森町支援のため丸森町物産販売会「元気です！丸森」をイオン仙台店クリスロード入口前にて開催。大好評を賜りました。



最初はぎこちなかった作業も半日が過ぎるころには要領を掴み、農家の皆さまから「来年もぜひ！」という声をたくさんいただきました。

丸森町耕野地区では、地域での交流会も多く開催されており、今後も社内発信を続け、1名でも多くの「参加者」の輪を広げてまいります。

## 福島県南相馬市小高区

地域の絆を深め、地域に元気を取り戻す。

「あかりのファンタジーイルミネーション in 小高」  
に参加しています。

南相馬市小高区の冬の風物詩「あかりのファンタジーイルミネーション in 小高」は2002年に始まり、冬の町を明るく彩るイベントとして親しまれてきました。震災後も「仮設住宅イルミネーション」として取り組みを継続し、2015年には、小高区のメイン会場での点灯式も再開されました。

2017年、イオングループ7労使が「イオン心をつなぐプロジェクト チーム小高」としてこのイベントに初めて参加し、3回目となる2019年は8労使がチャリティと現地活動に参加し、2労使が社内チャリティを実施しました。

昨年度に引き続き、小高産業技術高等学校の生徒の皆さんもイルミネーションを作成、共に小高駅前広場の装飾を行い、11月23日に点灯式を開催しました。

当日はおふるまいとして地元のOMSBカフェのコーヒー・ココア、地場産野菜を使った豚汁、お汁粉が提供されました。また、ご当地ヒーローキャラクターや南相馬のゆるキャラ「のまたん」も加わり、地元の皆さんに楽しんでいただくことができました。

同イベントへの参加は、2021年まで継続してまいります。そしてその後も、小高の皆さんと一緒に輝きを持続させられるよう絆を深めていきたいと思っております。





## ～お弁当プロジェクト 2019～

小高産業技術高等学校の生徒の皆さんと  
イオンが協働でお弁当をつくっています!!

福島県立小高産業技術高等学校とイオンリテール株式会社による復興コラボ弁当の商品化も 2019 年で 3 年目となりました。過去 2 年間、課題に挑戦した生徒さんは 4 名でしたが、今年は流通ビジネス科 12 名の生徒さんが手を挙げ、お弁当の商品化に取り組みました。

このお弁当には、東日本大震災後にやむを得ず、南相馬市を離れることになった生徒の皆さんのふるさとへの想いと、ふるさとの復興に支援や応援をしてくれている方々への感謝の想いが詰まっています。

お弁当には、南相馬市産のお米「天のつぶ」や 福島県の郷土料理である「いか人参」、地域で親しまれている漬物「相馬きゅうり漬」などを使い、“ほっ”と心が安らぐような相双地域の“馴染みの味”を再現しています。

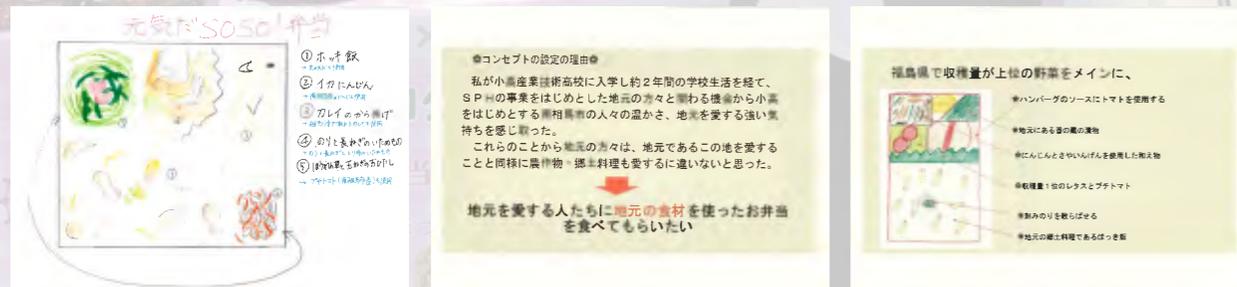
東北のイオングループ 4 社 248 店舗の他、イオンスタイル板橋にて行われた「まるごと福島フェア」、イオンタワーアネックスにて販売されました。



企画会議・試食会の様子



企画者 小高産業技術高等学校  
流通ビジネス科の生徒の皆さん



生徒の皆さんが作成したプレゼンテーション資料

企画会議の際には様々な企画の提案があり、話し合われました。何度も試食会を経て商品化されました。相馬地方の魅力と復興を頑張っている事を、地域はもちろん、県外へ移住された方にも伝えたい、是非ふるさとの味を思い出してもらおうという気持ちで作りました。「地域の復興」、「地元の良さを発信」をお弁当に詰め込みました。

ほうれん草和え

相馬きゅうり漬け

いか人参  
(福島の郷土料理)

ほっき飯ちらし  
(米は南相馬市産「天のつぶ」使用)

鶏むね肉味噌焼き  
(会津天宝味噌)



## ほっき飯ちらし弁当



ほっき飯いなり

～全国から東北を応援～

## イオングループ各社・各地の支援活動

イオングループ各社労使が、自分たちでできる支援を考え、自主的に支援活動を継続しています。

### 【被災地の産品販売支援】

◆ ボランティア活動などで繋がりのできた被災地の産品を各地で販売し、PR 販売しました。



南相馬の現状を知る語り部講演会と南相馬市産品販売を実施

福島県南相馬市や福島県北海道事務所職員の皆さんと一緒に、市の産品販売と観光PRを実施。南相馬市産の新米「天のつぶ」や旬の新高梨、加工品や銘菓の販売の他、赤べこの絵付け体験会も大変好評でした。

現地とのつながりを大切に、今後も継続・拡大に取り組めます。

イオン北海道株式会社  
経営管理統括部  
環境・社会貢献・広報・IR部  
千田 愛子



丸森町のあんぼ柿の店頭販売と食育講座



イオン合同見本市にて南相馬市産品をPR



ボランティアで収穫した気仙沼ゆずの販売



イオンタワー子供参観日にて、被災地の産品を販売



気仙沼大島の小学生が育てたワカメを従業員が買って支援



釜石ワインや遠野どぶろくを組合の大会でご紹介



丸森町産品をおとりよせ 従業員が買って支援

### 【被災地の産品を買って支援】

◆ 支援する地域の産品を取り寄せ、従業員販売しました。

## 【被災地の農家を支援】

- ◆ 震災により住人が減ってしまった被災地では、人手不足が深刻な問題になっています。グループ各で人手が必要な地域に入り、作業を手伝いました。



2017年度より福島県いわき市にて「綿花収穫ボランティア」を実施しております。3回目となる2019年度もイオンフィナンシャルサービス各社から社員とその家族が参加しました。ツアー直前に、台風19号の影響により、いわき市内が浸水被害を受けたため参加者に急遽、古タオル寄付を呼びかけました。突然の依頼にもかかわらず、たくさんの古タオルが集まり、現地の方に喜んでいただきました。

イオンフィナンシャルサービス株式会社  
総務部  
開本 朋子



除草作業と道路整備



南相馬 唐辛子苗植え付け



七ヶ浜復興支援研究会でのお手伝い



気仙沼ゆずの収穫



丸森町干し柿づくりのお手伝い

## 【教育を支援】

- ◆ グループ各社が被災地の学校に赴いたり、招待するなどして、子供たちの活動の支援をしました。



マスキングテープと写真でクリスマスカード作り授業



「花の輪運動」仙台市立川小学校にて花の苗を贈呈



丸森町の柿を使い、お客さまとスイーツづくり



小高の小学校へ食育カレンダーを毎月お届け



「海と生きる～次世代に伝えたい風景」をテーマにした、チャリティカレンダー「明日暦」による募金贈呈式と食育学習



事前高田市小中学校 復興支援カレンダー「明日暦」募金贈呈式



震災復興メモリアルパークの見学



南三陸の震災復興に向けた取り組みを学ぶ

## 【被災地で学ぶ】

◆ 実際に被災地に赴き、復興の現状や被災地での防災の取り組みを学びました。



釜石にて防災学習



気仙沼にて障がい者雇用と女性活躍推進について学ぶ

(株)メガスポーツは「社会貢献推進セミナー」を行い、釜石市を中心に地域との交流や復興の取り組みから学び全国の店舗で地域に根ざした社会貢献活動を推進します。今後も継続し、地域とともに成長する企業を目指します。

株式会社メガスポーツ  
人事総務本部総務部長  
中山 浩  
メガスポーツ労働組合  
中央執行委員長  
野手 泰将



震災後整備された避難用の山道でお話しを伺った

## 【サンタが100人やってきた！】

◆ ボランティアサンタが岩手県沿岸部の被災地の皆さんを訪問し、クリスマスプレゼントと笑顔をお届けする恒例の活動です。2019年度は12月21日(土)に釜石市と大槌町を訪ねました。



震災後子供たちの為に作られた「コスモス公園」にて子ども支援



NPO 法人遠野まごころネットへの贈呈



イオンタウン釜石での出発式でサンタ大集合

## 【被災地に行って支援】

- ◆ 被災地へ何度も訪れるうちに、地元の方々の困りごとに気が付くようになりました。自分たちが仕事で培った技術や知識を生かし、組合活動などでさまざまな支援を進めました。



気仙沼大島観光協会の要望があり、レンタサイクル整備を毎年行って喜ばれています。



400年前に伊達政宗公の治世に造成された海岸林は防風、防砂、防潮の役割を果たしてきましたが津波で失われてしまいました。そんな海岸林を再生させる「名取市海岸林再生プロジェクト」に参加しています。



「小高に千本桜をつくろう！」をスローガンに桜を植えている「おだか千本桜プロジェクト」を応援しています。



組合の竹あかりづくりワークショップで、丸森町で良く採れる竹で作った竹あかりを制作し、寄贈しました。



「働きたい女性のための合同説明会」で「印象のよいメイク」講座を実施しました。



東日本大震災の際に被災した犬や猫のため、シェルターを運営している「NPO 法人 SORA アニマルシェルター」を支援しました。



特産品のサメ皮を使った商品開発を進めています。

新入社員教育で行った「語り部、斎藤光代さん」のお話を踏まえ、気仙沼大島で実施した椿の実の収穫支援では殆どの新入社員が初ボランティアでしたが、活動を通し社会貢献への関心と東北への思いに繋がったと感じました。

また、「おだか千本桜プロジェクト」では「住民の絆を取り戻し、住民が戻って来た時に満開の桜で迎えたい」との願いに、大変感銘を受けました。

イオンプロダクトファイナンス株式会社  
人事総務部総務グループ  
加藤 ゆう子



## 【お祭り・イベントを支援】

◆ イオングループ各社が実際に現地に行き、被災地のお祭りを応援しました。



「街の活気を取り戻そう」というある若者の思いから立ち上げられた「釜石よいさ」。震災後 2013 年に復活したお祭りに参加し支援しました。



東松島・女川の地元市民を応援することを目的に、それぞれ石巻の「賢者」と呼ばれる人びとがブース出展を通して各自の技を伝授するイベント「サン・ファン石恋まつり」にてハンドマッサージを伝授しました。



津波で流失してしまった「陸前高田七夕祭り」の山車、「うごく七夕」と「けんか七夕」を復活させるために、復興支援カレンダー「明日暦」を作り支援しました。毎年新入社員が地元の子もたちと山車を引いて参加しています。



十日市は、明治 6 年 (1873 年) に出羽権現 (でわごんげん) 【現在の浪江神社】の祭日として浪江町権現堂地区に市を立てたことに始まります。今日まで受けつがれた、浪江町における最大の伝統行事です。各店舗で募った募金を「復興なみえ町十日市祭」で贈呈し、ブースを出してお祭りを盛り上げました。



「花咲かず FESin 遠野」は岩手県遠野市にある柏木平レイクリゾートで行われる春のアウトドア・イベントです。アウトドアフィールドの魅力や楽しむ方法をお客さまに伝えるお手伝いをしました。



相馬家の始祖といわれる平将門が軍事訓練として野生の馬を追い、捕らえて神前に奉納したことが始まりとされ、1 千年の歴史がある南相馬市「相馬野馬追」をお手伝いしました。

## 【おのくん製作応援】

- ◆ 宮城県東松島市の復興を願って仮設住宅の集会所で生まれたキャラクター「おのくん」の製作を応援しています。イオンモール(株)では全モール内で靴下や綿などの材料を集めており、2019年度は合計1,178足もの靴下を送付しました。ブランシェ(株)は従業員が手作りでおのくんのお洋服を作り、めんどくしえ祭りで販売するなど支援輪が広がっています。



イオンモール名取店でのイベント



ブラックフライデーにちなんで「ブラックおのくん」 東松島市での「めんどくしえ祭り」で贈呈



「めんどくしえ祭り 2019」でおのくん洋服販売



ザ・ピープルでの古着の贈呈式と送られた古着の箱

グループ会社含め、労使一体となって活動しました。初めての活動でしたが、従業員からは気軽に協力できる。また着用予定のない服を活用いただけることがうれしいとの声をいただきました。

ザ・ピープルはコットンの栽培もされているので、今活動を足掛かりに連携を深めていきたいと思えます。



株式会社 ダイエー  
人事総務本部  
総務部長 斉藤 奨



## 【集めて被災地を支援】

- ◆ 従業員の家庭で眠っている不要なタオルや古着などを集めて送っています。送ったタオルは雑巾や赤ちゃんのスタイに、古着は福島のリサイクル団体へ送られ資源として再活用されています。



従業員が持ち寄ったタオル



送ったタオルは復興ぞうきんや園児エプロンに加工されます。





従業員の家の庭で花を咲かせるひまわり



ひまわりの種とひまわりの写真で「特性ひまわりカレンダー 2020」を作成し贈呈

## 【福島ひまわり里親プロジェクト】

- ◆ ひまわりの種を取り寄せ、育て、採れた種をまた福島へ送る活動。  
採れた種は花畑やエネルギーとして活用されています。



障がい福祉施設「和（なごみ）」さまでのひまわりの種 贈呈式

全国のショッピングセンターや近隣施設など多くの方にひまわりを栽培いただき、復興を願う気持ちとともに収穫した種を福島に届け、観光などに活用いただいています。

2019年度は種詰め作業を行っている障がい福祉施設「和（なごみ）」様にて種を贈呈することができました。

イオンタウン株式会社  
戦略部  
齊藤 晶子



## 【本だなチャリティ】

- ◆ 不要になった本を集めて株式会社 未来屋書店で買い取ってもらい、その買取金額で被災地を支援しています。



心をつなぐプロジェクトで本棚チャリティを実施しました。一部の事務所の従業員のみではなく、全従業員が携わり、東北支援と復興問題を再認識する機会にしなければならないと考え、実施する際、全店舗、事務所で一斉に実施しました。2年目の2019年度は北関東、北陸、信越と3カンパニー合同で実施し、42万円を寄付しました。これからも東北支援を続けてまいります。

イオンリテール株式会社 南関東カンパニー  
営業推進部  
宮内 里香



各社でボックスを置き、古本を回収



各社で集まった本の発送準備



集まった本の発送準備

## 【語り部講演会】

◆被災地から語り部の方に来ていただき、被災の体験や復興活動についてお話を伺いました。



福島県飯館村村長に学ぶ「あたりまえ」の大切さ講演



NPO 法人海辺の森をつくろう会の斎藤光代さまの防災講座



福島県飯館村から避難したニコニコ菅野農園 菅野さまから新しい特産品作りに取り組むお話



福島県の一般社団法人まちづくりなみえの菅野さまから現状とこれからのお話

株式会社光洋は2013年より福島県浪江町への支援を始めました。東日本大震災の風化を防ぐ為に継続して店頭で募金活動を行っています。  
募金額も昨年は138万円を、3団体（まちづくりNPO 新町なみえ・浪江商工会・まちづくりなみえ）に寄付することができました。  
細く長く・・・これからも関西大阪の地からがんばれ！  
浪江町にエールを送っていきます。

株式会社 光洋  
総務部  
林 麗子



十日市祭での贈呈

## 【募金・バザー】

◆店頭での募金活動や、従業員募金、組合の大会などでバザーを行いました。



NPO 法人まちづくり新町なみえへの贈呈



バレーボールチーム「岡山シーガールズ」によるチャリティオークション

～目標：10年間で30万本植樹する～

## 東北復興ふるさとの森づくり [植樹活動]

# 2019年3月9日(土) 宮城県仙台市荒浜にて 累計植樹本数 目標の30万本達成

イオン心をつなぐプロジェクトは2012年にスタートし、植樹については岩手県・宮城県・福島県に10年かけて30万本の木を植えることを目標に活動してきました。目標達成後も植樹活動を継続し、地域の皆さまと手をたずさえ、被災地の復興、そして「夢のある未来」の実現に向け活動を続けてまいります。

～植樹活動～ 2019年度 計 **16,540**本 (11カ所)

### 宮 城



- 仙台市荒浜地区「みんなの森づくり植樹」  
植樹本数：121本 樹種：シラカシ・タブノキ・ヤマザクラ等  
実施日：3月9日(土) / 参加人数：90名



#### 【その他の植樹】

- 岩沼市「千年希望の丘植樹」  
植樹本数：2,086本 樹種：シラカシ・タブノキ・ヤマザクラ・マサキ等  
実施日：5月18日(土) / 参加人数：141名
- 東松島市海岸防災林補植  
植樹本数：680本 樹種：クロマツ  
実施日：7月10日(水)～12日(金) / 参加人数：22名



### 岩 手

- 大槌町「三陸鉄道リアス線開通記念 大槌駅植樹」

植樹本数：350本 樹種：ドウダンツツジ・ヤマツツジ  
実施日：3月17日(日) / 参加人数：60名

東日本大震災発生から8年経ちました。不通の状態が続いていたJR東日本・山田線の一部は三陸鉄道株式会社に移管され、2019年3月23日、三陸鉄道「リアス線」として全線開通しました。これを記念し、大槌駅前にて植樹を行いました。

当日は大槌町の伝統芸能「白澤鹿子踊り」の演舞や未来共創プログラムでも活動をともししている「かねざわクレソンヌ」の皆さまより、特産のクレソンを練りこんだクレソンひつまみのお振る舞いもありました。



#### 【その他の植樹】

- 山田町中央公園「山田町復興まちびらき植樹」  
植樹本数：500本(6月27日事前植樹550本)合計1,050本  
樹種：ツツジ / 実施日：6月30日(日) / 参加人数：53名
- 一関市「森は海の恋人植樹祭」  
植樹本数：50本 樹種：シラカシ・タブノキ・ヤマザクラ等  
実施日：6月2日(日) / 参加人数：55名

### 宮 城

- 石巻市「復興の森づくり植樹2019」

植樹本数：7,800本 樹種：シラカシ・タブノキ・ヤマザクラ等  
実施日：9月23日(月・祝) / 参加人数：815名

国営追悼・祈念施設となる石巻南浜津波復興祈念公園の整備が進められています。東日本大震災の際、石巻市の中でも特に甚大な津波被害を受けた地区です。公園内に未来の世代へ伝え続けていくことのできる鎮魂と憩いの森を育むため、市民やボランティアが力を合わせ、苗木の1本1本に思いを込めて植樹しています。



### 福 島

- 南相馬市「第7回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」

植樹本数：3,500本 樹種：シラカシ・タブノキ・ヤマザクラ等  
実施日：6月2日(日) / 参加人数：2,038名

この植樹地の特徴は、苗木を植える土壌となるところに震災がれきが利用されていることです。鎮魂の思いと震災の教訓を未来につなげる場所として、津波を緩衝するための「いのちを守る緑の防災林」の実現を目指し、市民一人ひとりの思いや祈りを込めた苗木を植樹しました。



～現地のニーズに合わせた中長期的な活動を～

# イオングループ従業員ボランティアを派遣

実際に現地へ赴き、地域の皆さまからお話を伺うことで知ることがあります。

イオン心をつなぐプロジェクト ボランティア派遣により 2012 年から 2019 年までの 8 年間で、延べ 3,969 名が現地で活動を行ってきました。この活動を通じた地域の皆さまとの交流は、大震災を改めて考える場、そして人と人とのつながりの重要性を知る場になっています。現地の皆さまの「笑顔」のために今後も活動に取り組んでまいります。

## 2019 年度ボランティア活動報告 [計 321 名 (11 回)]

### 岩手

2019 年度 計 50 名 (2 回)

#### 遠野へ ぶどうの収穫

●ぶどうの収穫作業  
(岩手県遠野市/参加人数 38 名)

##### 参加者の声

販売されるのが楽しみ、ぜひ味わってみたい。地域の復興のため、これからも参加したい。人手が不足でまだまだ応援が必要だと知りました。ぶどうの苗を育てるところから、ワインになるまでの大変な工程を知り、勉強になりました。これからもぜひ参加し続けたいと思います。



2019 釜石ワイン・シードル発表会 & 試飲会 (於 イオンタウン釜石)

●山田町まぢらき植樹・釜石スタジアム除草作業  
(岩手県山田町/参加人数 12 名)

##### 参加者の声

段取りよく進められて良かった。関係者の事前準備に感謝。2 年後、3 年後、ツツジが育った姿を見る機会を作ってほしい。壁のような防波堤にはびっくりしました。



### 宮城

2019 年度 計 105 名 (3 回)

#### 気仙沼へ ゆずの手入れ

●ゆずの補植・追肥作業  
(宮城県気仙沼市/参加人数 35 名)



##### 参加者の声

苗木の成長が楽しみです。カモシカを発見、動物被害があることを理解しました。後継者が不足していると思いました。50 年後、100 年後にも続く活動に感銘を受けました。現地の方の話は分かりやすく「伝える復興」の話に感動しました。

●柿(ころ柿用)の収穫・皮むき作業  
台風被害片付け作業 (宮城県丸森町/参加人数 48 名)



●海岸防災林の補植、除草作業  
(宮城県東松島市/参加人数 22 名)

### 福島

2019 年度 計 166 名 (6 回)

#### オーガニックコットンの栽培支援

●除草作業・コットンの種まき作業  
(福島県南相馬市・双葉郡広野町/参加人数 33 名)



●小高駅前除草作業

(福島県南相馬市小高区/参加人数 26 名)



●小高千本桜プロジェクト・除草作業

(福島県南相馬市小高区/参加人数 33 名)



●ガーデンハックルベリー収穫作業  
(福島県南相馬市・双葉郡広野町/参加人数 32 名)



##### 参加者の声

防災意識が高まりました。商品の購入が出来てよかった。一人のチカラは小さくても人数が集まれば貢献できると思いました。被災地の方々の前向きな強さに感動。地域の方々のふるさと復興への想いを聞き、これからもボランティアを継続して心を寄せていきたい。実際に体験する大切さを多くの人に伝え防災館に家族等を連れて行きたい。

●広野町バナナ栽培・除草作業  
(福島県双葉郡広野町/参加人数 35 名)

●海岸防災林の除草作業  
(福島県南相馬市松川浦/参加人数 20 名)